



若竹だよい



【巻頭言】

自然が医師

—春は竹の子掘りから—

園長 野田大燈

学園から少し離れた場所に孟宗竹の林があります。

普段はあまり近づきませんが、四月の中頃になると誰からともなく「もう竹の子が生えてるかも…」と言う事になり、先ず職員が偵察に行きます。

竹の子が生えていたなら軽トラックに竹の子掘りに必要な道具や袋を積み込み、園生達は徒歩でワイワイガヤガヤとお喋りしながら 600 ほど離れた竹林へと向かいます。

竹林には大小様々な穴が掘られています。イノシシが竹の子を採るために掘った穴です。

イノシシは竹の子を採るのに道具を使わないので鼻と牙で地面を掘って竹の子を探すのですが、「本当にイノシシが鼻と牙で掘ったのか?」と疑いたくなるような穴で、その穴の周囲には大小様々な石が掘り起こされて散らばっています。

だから本当に美味しい竹の子はイノシシが食べて、食べ飽きてイノシシが残して行ったものを頂く事になるのです。

以前に「イノシシは毒蛇のママシが好物なので、未だ寒くて土中に冬眠しているママシを臭覚で探して食べるから、イノシシを食べるとママシも食べたことになり元気になるんだ!」と言う話を聞いたことがあります。

それにしても重機械で掘り起こしたような穴と周辺

に転がる石を見ているとイノシシのパワーに怖くなってしまいます。

誰かが「この竹の子を九州で被災した人たちに送ってあげられたらなあ」と言いました。

園生達はちゃんと九州の地震被害を知っていて、何かお役に立てば、と考えていることが窺えました。

学園ではこの孟宗竹林の近くにある遍路小屋で国内外のお遍路さんにお接待をさせて頂いているから「おもてなしの心」が芽生えているのだと嬉しく思いました。

孟宗林は手入れをしたことがないので、園生のみんなで手入れをしないか、と声掛けをしてみました。

そうすると多くの園生が「やるよ、やるよ、どのようにしてするの?」と言う問いがありました。

私も詳しくは知りませんが、竹林の中を傘をさして歩くそうです。

つまり竹と竹の間隔が傘の広さと言う事のようにです。

「傘を差して歩いて、傘が通れない場所の竹を切り除くそうだ」と話すと「面白そう、それで何時やるの?」とやる気満々です。

振り返ると何時も園生に追われながら走ってきたような気がします。

情緒障害短期施設は「総合環境療法」という手法を用いて子ども達の療育に当たっていますが、特に若竹学園を取り巻く自然の佇まいが、そのまま治療効果に繋がっているような気がします。

やがて竹の子の時節も去って初夏に向かいますが、扨ども達は目をキラキラと輝かせながら自然の中からは何を発見してくるのだろうかとお楽しみにしています。

お花見



今年は暖冬の為、桜の花芽が休眠から目覚めに
くく、開花が遅くなると思われましたが、4 月頭
には満開になりました。桜は満開になったのです
が、お花見の日は生憎の雨でした。楽しみにして
いたお花見は、学校のホールから見る事になりま
したが、美味しいお弁当を嬉しそうに食べていま
しました。後日、天気の良い日に白峯寺でお花見を
しました。



紫雲ふれ愛ウォーク

4 月 3 日に峰山公園、芝生広場にて高松紫雲ラ
イオンズクラブ主催の「ふれ愛ウォーク」にみん
なで参加しました。多数の方が参加されており、
子ども達は大人をどんどん追い越していきたくさ
ん歩きました。歩いた後はおにぎりとお豚汁を頂き
ました。



**みんなで一緒に歩いて話したり、古墳の話を聞い
たりして楽しかったです。歩き終えて食べたおにぎり
と豚汁がおいしかったです。**



中学 男児



トカゲ採集

今、子どもたちの中ではトカゲの世話をするこ
とに夢中になっています。捕まえたトカゲは 20
~ 30 匹程で虫カゴがトカゲでいっぱいです。

毎日、ハーブ園までトカゲの餌になるクモを捕
まえに行きます。子どもたちは虫網を使わず
素手でクモを捕まえています。



たけのこ採り



散歩の帰りに遍路小屋
に寄ってみると大きなた
けのこが育っていました。
来月の野外炊飯で使用す
るため、収穫しました。

あまりの大きさに子どもたちも驚き、喜んでいま
した。

**たけのこをほって、スコップで怪我をし
たけど、がんばって掘りました。たけのこを
のせた一輪車を遍路小屋から学園まで押し
て帰りました。次の日、筋肉痛になりました。
大きいものもあったし、小さいものもあつた
けど予定していたたけのこ掘りができてよ
かった。 中学 女児**

ひまわりの苗

先日、園長先生からいた
だいたひまわりの苗を学園
に植えようと思います。

大きな花を咲かせてくれ
るのが楽しみです。



若竹学級だより

2016 年度, 幸先のよいスタート

新年度が始まり 1 ヶ月が経過しました。本年度の「若竹号」は, 中学生 15 名, 小学生 4 名, 学校職員 6 名の計 25 名で出発しました。途中いくつかの駅に停車し, さまざまな自然・文化・人にふれて, 子どもたちは大きく成長していくことでしょう。

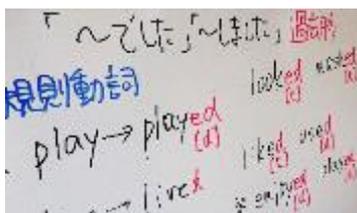
本年度の重点

1. 子どもに寄り添った支援・指導

入園に至った子どもの背景を理解し, 個に応じた支援・指導を行います。

2. 基礎学力の充実

繰り返し課題に取り組み, また, 分かる授業を展開し, 「読み・書き・計算」ができるようにします。



3. 体験活動の重視

五色台での野外活動, 特技や関心を生かしたクラブ活動, 校外施設でのふれあい体験活動を設定し, 子どもたちのよさを見つけ, ほめていきます。



4. 自尊感情の育成

子どもらが自らを見つめ, 伸びやよさを実感しながら目標に向かって挑戦できるよう, 教職員が支援していきます。

5. 進路保障の充実

昨年度は, 在籍した全ての生徒が志望校に合格しました。本年度も原籍校との連携を密にし, 上級学校への進学を見据えた進路指導を実施します。

学校職員の紹介

① 氏名, ② 担当, ③ 趣味, ④ 座右の銘

① 植松 繁 	① 石尾 理子 
② 中 3 担任 (数学)	③ 小学校担任
④ 列車に揺られて旅をすること	⑤ ガーデニング ウォーキング
⑥ 人生は芸術である	⑦ 為せば成る
① 尾野 弘司 	① 水谷 勇介 
② 中 2 担任 (社会)	③ 小学校担任
④ 旅行, スキー	⑤ 服を買いに行くこと
⑥ Que sera sera	⑦ 初心忘るべからず
① 岡本 勝彦 	① 大恵 淑恵 
② 中 1 担任 (理科)	③ 学習支援 (小中)
④ 車でドライブ	⑤ 嵐
⑥ 諦めたらそこで終わり	④ 一期一会

亀山学園お披露目

姉妹施設の児童養護施設「亀山学園」の改築が無事に終わり 4 月 3 日にお披露目することになりました。ご支援ありがとうございました。

若竹学園も亀山学園に負けないよう立派な建物ができるよう、園生ともに頑張っていきたいと思っています。



～御寄附ありがとうございました～

公益財団法人 S B I 子ども希望財団 様
英語カルター一式と、スピードラーニング・ジュニア（英語リスニング教材）を希望者に購入して頂きました。ありがとうございました。

職員紹介

4 月からよろしくおねがいます

<生活>酒井 芳武

入社したばかりの新人ですが、これから子ども達のために頑張っていきたいです。

<心理>西 功貴

子ども達と体験を共有し笑顔が多くなるような関わりをできるように頑張りたいです。

<心理>前田 愛弥

子どもたちと楽しく元気に過ごせるよう頑張ります。

4月

1 日	花見	8 日	入学式
3 日	紫雲ワーク	2 1 日	買物学習
6 日	始業式	2 3 日	太鼓・図書館

在籍人数 平成 28 年 4 月 25 日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男 子	小学生	0	2	2
	中学生	4	5	9
	その他	0	0	0
	計	4	7	1 1
女 子	小学生	1	1	2
	中学生	3	1	4
	その他	0	0	0
	計	4	2	6
合計		8	8	1 7

編集後記

4 月は出会いの季節です。子ども達にも人との繋がりを大切にすることを教えていきたいと思います。 保育士 田窪 識

第 267 発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

T E L 087-882-1000 F A X 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp/>

Eメール wakatake@mail.netwave.or.jp

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 野田 大燈